

令和5年度 第2回 香南市産業振興計画策定委員会 【議事録】

- 日時 : 令和6年1月30日(火) 13:30 ~ 16:00
- 場所 : のいちふれあいセンター2F
- 出席者 : ○策定委員 13名【赤池委員(委員長)、石丸委員、三谷委員、福井委員、岡本委員、北川委員、明石委員、川崎委員、小笠原委員、森尾委員、松村委員、三浦委員、別府委員】
- 策定委員代理 2名【中西様(観光部会副部会長)、森田様(JA高知県香美地区常務理事)】
- 市職員 15名【濱田市長、北村課長(総務課)、中島課長、溝渕係長(情報政策課)、刈谷主幹(企画財政課)、小松課長、久武係長、川西係長、児玉主査(農林水産課)、萩野課長、中屋係長、藤原係長、平尾主幹、楠瀬主事、府川(商工観光課)】
- 傍聴者 1名
- 欠席者 : ○策定委員 2名 (中田委員、國常委員)

◆開催目的

令和5年度の進捗状況及び令和6年度の事業計画(案)について、また、当計画の変更点について各分野の担当課長より報告及び説明を行い、各分野別部会長をはじめ、有識者や産業関係団体の代表者と分野を超えた横断的な議論を交わす。

◆内 容

- ・ 令和5年12月18日から12月26日に開催された各分野別部会の協議内容と総括及び令和6年度の取り組み(案)について各担当課長より報告。
- ・ 各部会長より補足説明等
- ・ 上記のことについての意見交換および策定に向けた動きの確認
- ・ 香南市産業振興計画(令和6年度版)の改定について協議

1. 開 会

事務局挨拶

委員1名の変更と代理出席者2名、欠席委員2名について報告。

オンライン(Zoom)でイシン株式会社の明石委員が参加。

本日の会は過半数以上の方の出席により、成立する旨を報告。

(香南市産業振興計画策定委員会設置条例第6条)

2. 市長挨拶

(濱田市長)

会議の冒頭に今年1月1日に発生した能登半島地震でお亡くなりになられた方へ心よりご冥福、また哀悼の意を捧げるとともに、復旧復興を1日でも早く願っている。

あのような大きな災害を教訓とし、これからの市政運営に活かしていきたい。

昨年5月にコロナが5類となり、コロナが明けた中で物価高騰、気候変動、一次産業と二次産業すべての産業に大きな打撃、さまざまな影響が出ると承知している。

だからこそ今ここにおられる皆様のお力をお借りし、香南市の産業を下から持ち上げていけるように、自由闊達な意見交換をし、有意義な時間を過ごして下さるようお願いしたい。

3. 議 事 （進行：赤池委員長）

① 令和5年度の進捗及び令和6年度の事業（案）について ⇒ （確認）

【農業分野】

- ・農林水産課 小松課長より、農業分野における令和5年度の進捗及び令和6年度の事業（案）について説明。
- ・農業部会 石丸部会長より部会の様子や補足の説明。

【林業分野】

- ・農林水産課 小松課長より、林業分野における令和5年度の進捗及び令和6年度の事業（案）について説明。
- ・林業部会 三谷部会長より部会の様子や補足の説明。

【水産業分野】

- ・農林水産課 小松課長より、水産業分野における令和5年度の進捗及び令和6年度の事業（案）について説明。

（赤池委員長）

農林水産業分野について報告があったが、ご意見、ご質問があればお願いしたい。

（松村委員）

農業分野、先ほど言われた白岩地区の水路改修事業に関わっており、東佐古の方では水不足という問題があったり、西の方では反対に雨が降ったら水路が溢れるとかいろんな問題がある。

全体を見ると、やはりその地域によって向いている農業というのはあるのではと感じている。これから農林水産課と一緒に地域計画で目標地図などを作成していくが、やはり地域の方にも話をし、これからの農業をどうするか、どういう担い手に託していくかなどもみんな考えていきたいと思っている。

もう一つ、有機栽培のことで、昨年南国市でお米の有機栽培の勉強会があり、見て話をきいてきたが、やはり今までの農業とはまた違った取り組み、やり方も変わっている。内容を聞くと、なるほどというような、有機栽培だから収量が減るとかではなくて、反対にお米の生育を健全化することで、収量は上がるし雑草もあまり生えないし肥料も化学肥料を使わなくても有機の肥料でできるという説明だった。

私はお米を作っていないので詳しくは説明できないが、現実にされているところがあって、そこは農協の方だったが、周りの人もやっている姿を見て教えてほしいという人がいて、そういうお米を使いたいということで広げていく話があった。

香南市としては県外との話があるみたいだが、全然夢ではなく、今までのやり方をまた前進するんだという気持ちで取り組めば、いい情報はたくさんあるのではと感じた次第であり、そういう情報を私も農業委員として伝えていけるようになればいいと思った。

(農林水産課 小松課長)

地域計画と特別栽培米のお話をいただいたが、地域計画で今18地区を回っているが、その地域が今後どのように、どのような人が、どのようなものを作るかといった、要は10年後のその地域の将来像を描いてどのように農業を進めていくかというような話を進めている。委員さんも来られたことがあるように集まる人数が少ないので、それをどうやって集めて地域に届けていくかというのは課題と考えている。

特別栽培米の話が出たが、お米に手間をかけていられないということがあって効率よく進めてきたのが慣行栽培。それに逆行するようなことになっている。

ただ、減農薬であったり、有機肥料ということであって、いろんなケースがあるが、例えばこどもたちの発達障害なども少なくなるデータも出ていると聞いている。

(濱田市長)

この件は私が市長になり、こどもまんなか社会を香南市で実現するという一つのことであり、そもそも、いわゆる遊休農地が増えてきた、そしてお米の値段が低いという話の中で、色々な地域に出向いて行き、今まさに健康志向、都会の暮らし方が食べ物で健康という意識が高い方がたくさんいる。そういうことを推進する方々とお話をさせていただくと、やはり減農薬だったり、オーガニック、無農薬、究極はそうだが、やはり医食同源という言葉があるが、そういうことを進めているという話を聞き、香南市でできることはないか、せっかく素晴らしい農地が広がっている中において、その農地をいかに有効活用するか。それと同時に私がやりたかったことは、それをこどもたちの健康とどう繋げていくか。このこどもまんなか社会が無償化や無料になる、何でもやってくれるという物理的な子育て支援だけではなくて本質的な、こどもだけではなく市民の安心安全というものを考えた時に、今回の減農薬でスタートさせていただく。慣行農業から有機に変えるのではなく慣行もあり有機もある、共に共存していく。手間がかかっていたことを乗り越えて現在慣行農業で農薬を改良し、機械化しデジタル化してきたが、やってきたことと逆行していくが、それを求める人がいるのであり、それをしっかりと作っていく。香南市がそういう農業の産地としたいと思っている。ブランド化に向けたスタートを春からしたいと思っているので、農業委員の方、JAの方のご協力なくしてはうまくいかないのでご協力また温かい目で見守っていただきたいと思っている。

(福井委員)

林業について、若い世代への普及、木育について私の子供も野市に家を買って暮らしているが、

同年代の人がたくさん住んでいる所で町内会もできていないので広報も配布されていない。

ケーブルテレビをつけたらと言ったがお金が別にあるといい、付けていない。そういう状況なので（周知は）難しいと思う。でも携帯はずっと見ているので SNS などを普及させてすぐ連絡がとれる方法、強制的にアプリを入れるなどいろんな情報が若い世代に届くような方法を積極的に考えないといけないのかと。今まで私たちなら広報やケーブルテレビを見たりしているが、十分できていない部分がでてきているので、工夫して知らせてもらいたいと思った。

（赤池委員長）

広報については若い世代、場所にもよるとは思うが伝え方というのが変わってきているというのは肌身に感じていると思う。その辺を工夫して SNS 等で情報発信していくということだと思う。

他にいかがか。

私から、今回農業、林業分野について、私もこの産業振興計画を 5 年、6 年ほど務めているが当初からやはり担い手というのがこの分野の大きな課題になってきた。

特に一次産業について、どのように担い手を確保していくのか。香南市で農業を継続される方ももちろん、新たに入ってくる方をどういうふうに作っていくのかが大きな課題だったと認識している。

まず、農業林業それぞれに現状についてお尋ねしたいが、農業については新規就農の数を一番の大きな目標に掲げているというところ。

相談件数が 23 件、昨年度時点よりも増えている、意欲が低い方がいるということも書いてあるので、この 8 件の実績、また相談される方は若い方なのか、親元の方、親元に就農されるということはそれなりの年齢というのも想定できるが、どういう方が相談に来ているのか。

特に香南市の場合は、働く先が農業についてはすごく多様なというのが特徴だと思うので、実際にフェアに参加された時の、外の人たち、就農を目指す人たちがどういうふうに関南市を見ているのかが分かれば教えていただきたいと思う。

（農林水産課 小松課長）

農業分野の担い手の確保については市内だけではなく、県外（大阪、東京）などに出向いて高知暮らしフェアや農業人フェアなどがあって取り組んでいる。

そういった中で、相談はあるものの、実際県外から来ていただけるのは数としては少ない。地域おこし協力隊などの実績はある。

（8 件の実績のうち）香南市の主要な産業のニラが 4 人、ナス、ピーマン、ゆず、トルコギキョウで主に農家出身であった者は半分くらい、新たな者が残り半分、年齢的には幅広く、若くて 19 歳、今年度は 46 歳が最高齢になっている。

そういった方々に品目にあった土地や設備をどういうふうにしていくか、相談内容によって話を進めていき、実際にできるかどうかなど確認している。

(赤池委員長)

これから高知県、中山間地域に若い人ということは大きなテーマになってくる。

もう少し詳しく教えていただきたい。

相談を受ける段階で、もう私はニラしかやりませんか、そういうふうに相談されるのか。なんとなく農業やりたくて香南市で探していて、こういうのがあるよという中でその方は選ばれるのか。それとも、最初からある程度、私ユズしかやりませんか、そういう方がいらっしゃるのか、現状が分からないので教えていただきたい。

(農林水産課 小松課長)

いろんなパターンがあり、全然農業を知らない方が相談に来ることもある。何がやりたいかも分からない人も。

まずそういった方は窪川にある担い手育成センター、そういったところに研修に行って、そこで勉強をしてから農業してくださいねとか、自分の農家、農業を引き継ぐものだったり、友達が例えばニラをやっているのその話を聞いてニラをやりたいなど、そのように指定してくる方もいる。

ニラの話も儲けている人の情報を聞いて、自分も儲けるんじゃないかという感じで来る方もいる。

そこは十分に担当からも注意をしている。

(赤池委員長)

関連して林業の方は事業量としては非常に大きな量だと思うが、事業体の数もそうだが担い手という意味ではなかなか外国人の技能実習生が入れる分野ではないと思うのでその辺りはいかがか。

(三谷委員)

幸い、高知県が林業大学校を作っていただき、そこで大体20人弱、毎年2年間で卒業されて出てきておられる。

ただ、事業体の方が圧倒的に多く、なかなか全体に入っていくのは難しいかなと思う。幸い、今年2名、うちの組合に入っていた。就業者の中でも80歳に届くような人も現役でやってくれており、早く世代交代をしていきたい気持ちはあるが、なかなかどんどん増えていくような仕事でもないのその辺は難しい。

(赤池委員長)

やはり林業と農業の所で、その学校を卒業した後に来られるというのが、林業の方はしっかり道筋ができていますが、部会の報告を見ると、なかなか学校から直接というのも難しいのかなと感じたところ。

(森田委員代理)

特別栽培米、傍から見ると簡単ではないのではと思っている。自分も農業公社で理事として務めており、この件については農協の担当者も当初から入った中で視察も行った中で研究しながら進めている。

これが成功すれば、香南市全体に広げていくというところがあるが、香南市自体が園芸産地なので、なかなか今耕作放棄地が多くなっているがそれでも田んぼは作っている。なるべく早めを作って早めに売る。それで本業に取り組んでいくという形なので、やはり専門でやる人がいないとこの事業はなかなか難しいかなと思っている。

★休憩 (5分)

【商業分野】

- ・商工観光課 萩野課長より、商業分野における令和5年度の進捗及び令和6年度の事業(案)について説明。
- ・商業部会 福井部会長より部会の様子や補足の説明。

【工業分野】

- ・商工観光課 萩野課長より、工業分野における令和4年度の実績値の追記と修正について報告。令和5年度の進捗及び令和6年度の事業(案)について説明。
- ・工業部会 岡本部会長より部会の様子や補足の説明。

(赤池委員長)

商工業分野について報告があったが、ご意見、ご質問があればお願いしたい。

初めに、イシン株式会社の明石委員に KPI にある目標数値(新規事務系企業誘致数)1件に入られた感想も含め、コメントをいただきたいと思う。

(明石委員)

香南市さんにご縁をいただき、オフィスを設立、設置させていただいて、今4名の方に常勤していただき良い成果を出していただいている。

主に自治体向けに電話をかけて事例アンケートを取るという業務を受託しており、今後東京の大手IT企業と一緒に、より加速させていくような話もあり非常にいいご縁をいただいたと思っている。

近況をお話すると、スタートアップやベンチャー等ITの会社の状況は下火である。

昨年、一昨年くらいが過熱しており、その反動、株式市場が特に東証一部、今のプライムは非常にいい調子であるが、新興市場、ベンチャーの新興マーケットはまだ冷え込んでおり、その影響もあって東京のスタートアップ、ITの会社は資金調達に非常に苦労している。

人材の採用難易度はますます上がっているので、我々のように地域の方と連携してニアショア、オフショア的な形、サテライトオフィスのような形で進出するのは東京の会社にとっても

非常に効果的なのかなとは感じている。

事業承継のお話があったが今関東の方でも事業承継のビジネスが盛んであり、地域の地銀と一緒に連携して非常に活況を持っているが、先ほど申し上げたベンチャーやスタートアップ、ITの会社と、例えば事業承継を考えている香南市の事業主とのマッチングイベントのような出会いの場のようなものがあれば、新しいアイデアや少し違った活力を、地域に一つ何か相乗効果を出せるようなこともできるのかなとは少し感じていた。

(赤池委員長)

私から一つ質問を。4名の方を雇用されて、オフィスで働かれているということで、採用はどのような形でされるのか。

(明石委員)

最初はハローワークに出したがすぐに反響はなく、タウン誌のような、フリーペーパーのようなものに何回か出稿させていただき、反響を得たという認識。ポイントは最初時給を一般的なレベルで抑えていたが、なかなか採用できなかつたため、首都圏と同じくらいの時給に上げて応募が来たというのが実情と思う。

それでもこちらで言うと、結構安定して長くしっかりと働いていただけるようなオフィスワークをしていただける方自体が東京でもなかなか採用できないというのもあるので、給与差、時給差をつけなくても非常に我々としてはありがたい話である。

(石丸委員)

商業工業関係でお聞きしたいが、商業、工業、農業、すべて物価高ということで、資材の高騰、種類によって違うと思うがかなりこれに苦勞していると思っている。電気にしろやはり商業、工業、農業、すべて電気を使う商売なので、そういう面も含め、農業については、商品に価格を転嫁、農産物に価格転嫁ができないと、自分で決めれないという不利な部分もある。

ただ、工業や商業は、材料が上がったのでちょっと価格を上げさせてもらいますということができると思うが、あまり上げすぎると消費者が買い控えするという点も出てくると思うが、そこを企業としてどういうふうな努力をされているのかアドバイスをお願いしたい。

(福井委員)

参考になるか分からないが、20年ほど前にオープンして以来お菓子の値段、一袋150円ほどの物をそのままにしていたが、もうさすがに上げないといけないだろうということで、150円を160円にして10円上げて、プラス税のようにして、あまり上げて嫌われるのも嫌というところでやっている。でも娘は「こんなに苦勞して作りゆうのにもっと値段上げんといかんでお母さん。」と再々言われるが、なかなか価格の転嫁は難しい。

わからないように少しずつ上げたい気持ちはあるが、本当に資材も材料も毎回毎回上がるような状況でやっている。

(岡本委員)

大変申し訳ないが、私の方で原価など数字的なものは把握していない。

先ほどおっしゃられたように、電気料とか必ず必要な経費というのは上がっている。

そのため、弊社でもやはり経費削減というのを口酸っぱくなるほど求められており、小さいことから少し実現が難しいことまで、とりあえず頭出しをして対応しているところ。

(赤池委員長)

商工関係で商工会の方はいかがか。

(川崎委員)

皆さんおっしゃるように、あらゆる業種でいろんなコストが上がっている。この値段を上げる、上げないというのは、個々のお店や事業者の判断になるが、傾向としてはやはり上げなくては商売にならんという状況があるので、適正まではいかなくても、全部が価格転嫁できるわけではないがある程度は上げさせてもらいますというので、飲食店、今居酒屋でもコロナ前は大体5,000円ぐらいで宴会というのが高知県はスタンダードだったと思うが、今6,000円からなどだが消費者の方にそこは理解してもらっている、しょうがないよねというところは一定あると思う。

ただ、企業相手の商売や運送会社、また先ほど農業の方がおっしゃられたように自分で値がつけられないというところもあると思う。そういうところはやはり効率化や設備投資など、何とかコストを抑える、値を少し上げて、利益を確保するという取り組みをされている方もいる。一概に全部が全部同じ対応ではないが、ある程度は価格転嫁しているという流れに見える。

(赤池委員長)

先ほど事業承継の話もあったがこの商業分野に関して言うと商業者数であったり、新規の事務系の企業数という事業承継にも関わるところで、北川委員、香南市の状況についてご報告いただければ。

(北川委員)

今のところ廃業が多いというイメージは持っていないが、廃業を考えているという話はいくつか出てきている。

コロナが明けたところで今まで必死で頑張ってきたけれど、もうそろそろなのかという話は出てきているので、そういうところは事業引継ぎ支援センター等と訪問しながら、ニーズを確認してというようなところでは進んでいっているが、大きく何か動いているというようなイメージは今のところない。

ただ、金融機関として非常に今心配しているのは、いわゆるゼロゼロ融資の元金据え置き期間がこの春で本格的に終了する。事業者で二極化しており、まずお金を借りたけれども使わずに済んだので、繰上返済しますというところもあるが、一方で中小企業の小規模でされているところは、今まで借入れをする時というのは設備投資をする時が主だったと思う。土地を買

う、工場を建てるなどの時だったと思うが、コロナの時に初めて運転資金を借りて、増えてしまったと。3年半くらい返さなくてもよかったというところで、利子補給もあったということもあるが、自分のお金みたいになっているところがあり、今春からの返済が大丈夫かと伺っても、何とかなるだろうという方がほとんどだが、実際に始まってみるとそうなのかなという危惧が非常に金融機関としてはあり、そのところはどの金融機関も同じだと思うが、今は一緒にどう返していくのかを考えながら計画を立てることができるようになっており、商工会さんを含め早めに相談をしていただき、ともに解決をしていこうと思っているのでそこはよろしく願いしたい。

(赤池委員長)

状況は非常によくわかります。私からいくつか質問させていただきたく、一つ目が工業分野のところで、新規の雇用者数、来年度以降また大きく数字も変わると思うが、ここに注釈が入っていて、市在住の方の数、住民票を置いているというのが条件にしている4名ということだが、状況としては市外の方が、新規雇用で香南市の雇用の大部分を占めているのか、感覚的なところでも構わないが、KPIに関わるころなので新規の雇用者数のところの4名、市在住の方4名は、住居は市外にお住まいのまま、雇用は継続的にできているのかどうか、事業者の方からの視点と、事務局としてはこういう位置づけになっていると思うので感覚的なところで構わないので教えていただきたい。

(商工観光課 萩野課長)

10月末の新規雇用者ということで、数値目標としては地元雇用で4名の方ということになっていますが、地元雇用じゃなく全体の正社員雇用という形の雇用でいくと、10月末時点で29名の雇用の報告を企業からいただいている。

(赤池委員長)

29名のうち4名が香南市にお住まいの方ということ。

他の自治体から見れば香南市、仕事場としての位置づけもあるので。状況としては分かった。

もう1点教えていただきたいのは奨学金の返還事業、もう少し詳しく教えていただきたい。

1点は、これは事業主が申請するものなのか、卒業して働き始めた方が個人で申請されるものなのか、どちらの手続きが必要なのか教えていただきたい。

(商工観光課 萩野課長)

未来人材育成奨学金返還事業については、個人の方から申請をいただくようになっている。

返還金の残高等について個人の方に通知がいくので、返済していただいた金額を確認する書類などは個人の方から提出していただくものになるため、個人の方より申請をいただいている状況となっている。

(赤池委員長)

29名の方、これは市内在住の方ですよ。居住地には関わらないということか。

(商工観光課 萩野課長)

この奨学金返済の対象となる方は、香南市内の企業に就職をされて、かつ、その方が市内にお住まいということが要件になる。

(赤池委員長)

年齢制限もあるのか。

(商工観光課 萩野課長)

40歳までである。

(赤池委員長)

これから就職する学生の奨学金の負担というのはすごく大きい。そういうことが、香南市だけではないと思うがやはり魅力的な気がしている。数に繋がっていかないというところ、個人で申請するところの手続きの情報がうまく入っているかどうかというところも問題意識を持たれていると思うので、ぜひうちの大学で就職説明会の時に広報していただければと思う。

(商工観光課 萩野課長)

企業訪問などで、企業が集まる会などでは当事業について説明をさせていただいており、また城山高校でも企業説明会などを開催しているので学生の方にも助成金については説明をさせていただいている。

【観光分野】

- ・ 商工観光課 萩野課長より、観光分野における令和5年度の進捗及び令和6年度の事業(案)について説明。
- ・ 観光部会 中西副部長より部会の様子や補足の説明。

(赤池委員長)

観光分野について、意見交換を積極的にお願したい。

(小笠原委員)

「あんぱん」の事業について、ロゴ、キービジュアルについてはこれから3市観光協会や商工会と共同で作り上げていくものとなっている。

NHKさんも来年度、9月、10月くらいにはキービジュアルを打ち出してこられると思っているので、使いやすいとか、お土産物などにどんどん使っていただけるようなメインにしたいと思っている。

香南市にはごめん・なはり線のキャラクターというすごくいいものが残っている。絵金蔵であれば「絵金さん」や、のいち動物公園にもキャラクターが残されているので、香南市らしいキャラクターというのをどんどん使っていくことができるのではないかと考えている。

香美市、南国市はやはり実際お住まいになられていたところなので、どうしてもこの2市では受け入れきれないくらいのお客さんが来られると思う。香南市の大きな宿泊施設やレストランなどで食事の面などを受け入れていただいたり、周遊バスを運行する際にはぜひ駐車場のご協力をいただくのは香南市ではないかというのは当初より2市から話があるところ。そういったところをぜひうまく利用して、臨時の駐車場をどうするのか、観光案内所を開設して香南市内に回そうかといったことを3市のみなさんと計画を立てていきたい。また、良い報告ができるように頑張っていく。

(赤池委員長)

森尾委員いかがか。これからの期待と特にコロナが明けて5月以降の状況も含めて香南市の状況について教えてほしい。

(森尾委員)

コロナも5類になって以降、香南市にお越しのお遍路さんをはじめ外国の方も増えてきたなという印象である。

またイベントが復活してきており、ホームページやフェイスブック、インスタグラムなどで情報を求めるお客様が非常に多くなっているなという風な印象を受けている。なのでイベントが復活すると人も本当に動くんだなど、このまちにもたくさんの方が訪れるようになってきていて、宴会のバスが市内を走っていたりするとすごく嬉しいなという気持ちになった。

「あんぱん」についてもやなせさんには直接関係ないところもあるが、ごめんなはり線のキャラクターをはじめ何とかして香南市にも足を運んでいただけるような取り組みを、DMOさんと連携しつつ進めていきたいと思っている。

これから本当に楽しみだなという気持ちもあるのでより連携していきたいが、駐車場は「あんぱん」で3市を回すシャトルバスだけではなく、香南市内の山の方のイベントや、西川花公園、あじさい街道などの駐車場の問題は非常にいつも大きく悩まされている。なので、何か拠点となるような、大きな防災も兼ねたような駐車場で、かつイベントのできるような広い土地みたいなもの、長い計画を立てながらいろんなことに活用できる場所があるとすごくありがたいと思う。この「あんぱん」をきっかけに、中山間地域への集客など、どこかをキーにするというようなものも発展していくと、今後、より自信を持って集客ができるのではないかと考えている。

(赤池委員長)

特に「らんまん」から「あんぱん」に、隔年で取り上げられることは他県では絶対ないだろうし、期待が大きいのもよくわかった。

香南市の宿泊事業者について私あまり知識がないが、大学の関係で県内、高知市内、また橋

原とか奈半利、いろいろと宿泊事業者と話をしている中で、やはり担い手、ホテルの従事者が少なくなっていて、部屋そのものも開けられないとか、飲食という宿泊事業者の方の担い手の働いている方の状況、人が足りてるのか足りていないのか、香南市ももちろんだがこの3市全域でどういう状況なのか教えていただきたい。

(小笠原委員)

そのとおりであって、人がいないから部屋をクローズしているというのは香南市だけではなく高知市の方からも聞こえてくるくらいになっている。

今働き手がないというのは宿泊事業者だけではなくて、皆さんのところでもそうではないかと思うが、県の方も観光に関しては今東京や大阪に出張に行くと、コンビニでは日本人は働いていない。外国の方ばかり。もう少しで高知県もそういった状況になるのかもしれないなど思っているところである。

(赤池委員長)

宿泊に限らず観光に関わる担い手という認識でいうといかがか。

(森尾委員)

観光の担い手、例えば観光農園のみかん狩りができる施設も2件から1件に減ってしまい、今は若手の方が継いでやっていくとなっているが、その次の世代となると、家族経営ではなくこれから雇用をしてということも考えていけない時代が迫ってきている。それは農業の後継者もそうだと思うが、観光農園になってくると難しいところもあったりすると思う。

あとは、宿泊施設、一人でやっていたけれどその方ができなくなれば次の方がいない。せっかくリフォームしたけれど次の運営まではなかなか難しいというようなこともあり、急遽予約の時だけ息子さんが立ち会うようにしたなど、小さな宿泊事業者もある。またベッドメイキングがなかなか難しいためこの期間は閉めるなど、繁忙期に合わせて事前予約を受けてオープンするという施設もあると思うので、働き手の問題というのは観光でも考えないといけない大きな課題と考えている。

(福井委員)

物部のクーポン事業の状況はどうだったか。

(小笠原委員)

「ものべ旅クーポン」という南国・香南・香美3市の宿泊施設に泊まってくださった方に3市で使える観光クーポンを配布する事業を2か月行っていた。想定していたほど成果は出ていない。

理由は昨年に比べて宿泊者数が大きく減っており、全国的に行われていた観光のキャンペーンが終わっているところが大きかったと宿泊施設から話をいただいている。(料金の)高い宿泊施設では購入されている。観光クーポン目的で宿泊者数が伸びているというのがあり、やは

りこれを目的に宿泊する人がいるという実態は分かったが、イコール3市全体の宿泊者数を上げるところにはいかなかったという印象。

今月締めて来月には報告ができると思う。

(福井委員)

うちの店にクーポンを持ってくる方がぼつぼついて、その中に東京の方でみかんの収穫作業を手伝いに来て泊まったところがクーポンを配布してくれたため、たくさんクーポンを持ってお土産を買って帰れると喜んでいる方もいて面白いなと思った。

(小笠原委員)

実際使わせていただいたお店からは「ありがとう。」という声はいただいている。それは良かったがもう少し考えなければいけないところがあったかなという反省点もある。

(赤池委員長)

別府委員からもお願いしたいが、観光いろんな分野に関わるところなので、香南市の特に「らんまん」から「あんぱん」までの、この間この年のところにコロナが明けて回復している状況があるがいかがか。

(別府委員)

いろんな意見が出ており、DMOの小笠原さんからもお話があったが、ぜひこの「あんぱん」、直接的には香南市にゆかりの地はないが、香美市南国市と隣接して、観光というのは大きなエリアで考えていかないといけないので、これは香南市にとっても大きなチャンスだと思っている。

先ほども商業分野の方で動物公園とスイーツスタンプラリーをしたら大人気ですぐ終わったなどということがあるので、ぜひ、香南市も、アンパンマンミュージアムには多くのお客さんが来ると思うので、そのお客さん、小さいお子さんをアクランドや動物公園、ヤ・シィパーク或いはサイクリングターミナルなどへ引っ張ってきて、食事の話もあったがこども向けの食事など提供しているところのスタンプラリーをするなど、このドラマの効果が香南市にも行き渡るよう、3市連携した取り組みをしていきたいし、もう一段磨き上げるところはないかというのも議論していきたいと考えている。

2月1日に物部川エリアで観光博覧会準備委員会を立ち上げるようにしているのでぜひしっかり香南市にも経済効果を出したいと思っている。委員の皆様にもぜひどんな取り組みができるか考えていただけたら。また連携してやっていきたいと思っている。

(赤池委員長)

三浦振興監に、県の産振との関係でいろんなプランが入っていると思うが、市の産業振興計画のところの現在の関わり、関連するところで構わないので総括的にコメント、アドバイスをいただきたい。

(三浦委員)

県の産振計画は、尾崎前知事が外商を進めようということで高知県の売りはなんだと言ったときに、農産物、第一次産業の商品をそのまま青果として外に出して、それをさらに付加価値をつけて外商を強めていこうという発想のもとに始まっていると私は認識している。

その取り組みも今年度で第4期が終了し、来年4月から第5期の産振計画を立て新たな取り組みとして皆さんと一緒に勉強して進めていくということである。

香南市を特徴として説明する時に、物部川地域のアクションプランを立てているが、その前書きを整備する時に改めて認識をしたが、やはり製造業のウエイトが重たい地域である。一般の方々とはなかなか触れ合えない工業分野の業界が非常に強いエリアでもある。

一方で農産物、林業も強いエリアで、本当に産業が強いエリアということである。

さらにそれに合わせて交通インフラがどんどん進んでいるエリア、現在東方面に自動車道が伸びている状況であり、最終的に徳島まで繋がるようになれば新しい人の流れが生まれてくる状況と考えている。

それは先の長い話だが、非常に私個人として気になるのはやはり担い手、後継者不足である。

こちらの会で途中話も出たが、なかなか日本人で賄えないというところで、例えば岡本委員の勤務されている会社でも外国人労働者がかなりの人数勤務されていると聞いているし、農業分野においても外国人材はなくてはならない分野になりつつある。

一方で域外からこちらの方に仕事で移住されている方々、外国人も含めて住む場所がやはり問題になっているのではないかと。その地域で住むアパート、マンションがない。企業体としてそういった人材を確保するために、合わせてその住居の問題を会社として問題意識を持たれてお世話されていると思うが、住む場所がない、アパートもない、どこに住ませるかということと頭を抱えている。行政としてどこまで支援すべきなのかということにもなる。

岡本委員から状況などを聞かせていただけたら。県のこれからの施策にも活用させていただきたいなと思っている。

(岡本委員)

弊社では昨年の9月から6名の雇用をしている。幸いなことに山北宿舎を確保でき1室2名、3部屋を確保している。

技能実習生から話を聞くと、企業によってまちまちであると。幸いにして弊社は宿舎を確保できたので技能実習生からは評価を得ている。

昨年のものでづくりの会議の議論の中でもそういった話題が出たところである。

(赤池委員長)

議事1について、皆さんに取り組み状況のご確認をいただき、各部会での報告の内容やコメントをいただいたところ。

議事2についても議事1と紐づく内容となっているため、引き続いて議事2、香南市産業振興計画（令和6年度版）の改定についてに移りたい。

② 香南市産業振興計画（令和6年度版）の改定について（資料4） ⇒ 承認

（赤池委員長）

令和6年度の計画についてご承認をいただいた。

最後に全体を通してご意見等があればお願いしたい。

冒頭にも申ししたがこの香南市の産業振興計画は香南市が独自にかなりの努力をして作っているものだと認識している。

来年度が一区切りになるので、実績については4月以降第2期の振り返りと、第3期に向けては分からないが、これまでやってきたことをどういう風に生かしていくのかを来年度以降は協議していく話だと思うので、引き続きよろしくお願いしたい。

進行を終わり事務局にお返しする。

（事務局）

事務局より2点説明。

- ・令和6年度のスケジュールについて（参考資料2）
- ・デジタルマーケティング戦略セミナーの開催について（チラシ）

◆ 閉会挨拶

（別府副市長）

皆さんには熱心にご議論いただき本当に感謝申し上げます。香南市の産業振興に結び付けていきたいと考えている。

先ほど来「あんぱん」の話が出ている。しっかり結びつけていかないといけない。ぜひおひさんを筆頭に土産物などの開発もできたら。

シイラやイワシシラスも不漁の話があったが、デジタル化など補助金なども入れながら効率的に漁をする、あるいは農業分野でもデジタル化を取り入れることで人手不足の解消にも多少繋がっていくのではと考える。

最初に出ていたオーガニック米、有機の特別栽培米の取り組みはこどもまんなかの取り組みの一つでもある。

県でも人口減の問題、担い手不足の話も出ているが、中山間地域振興ビジョンを作るようにしており、人口減少対策にウエイトを置いた計画になっている。県の交付金も新しく作られるということでそういったものもしっかり活用し、こどもまんなかの取り組みで人口増に厚みを増し、それが担い手不足にも繋がっていくと考えている。

いろいろ課題はあるが、ぜひ関係者の皆さんが一致団結して経済効果を上げていきたいと思うのでよろしくお願いしたい。

（事務局）

以上をもって令和5年度第2回香南市産業振興計画策定委員会を終了する。

以上